

平成 24 年度第3回(通算7回)
天理市上下水道事業経営審議会 議事録

会 議 名 称	平成 24 年度第 3 回天理市上下水道事業経営審議会
開 催 日 時	平成 25 年 2 月 20 日(水) 14:00 ～ 16:35
開 催 場 所	天理市上下水道局 2 階会議室
出 席 委 員	伊藤忠通 中室克彦 三橋保長 山本治夫 大中由美 小川善正 弓場清正 桃原璋和 南一則
欠 席 委 員	川崎祥記 山口福雄
出 席 職 員	中谷上下水道事業管理者、小堀上下水道局長、大沢上下水道局次長、幸田下水道課長、池田下水道課主幹、小南経営課長、藤岡給水課長、山本浄水課長、寺田総務課長、平畠経営課長補佐、岡林経営課企画係長、森経営課職員
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議事録署名人の指名 4. 議題 <ol style="list-style-type: none"> ①下水道施設の長寿命化対策について（第一次答申） ②水源の選択について 5. 事務連絡 6. 閉会

議事内容

<p>司会 会長</p>	<p>【開会】</p> <p>【あいさつ】</p> <p>【議事録署名人の指名】</p>
<p>事務局</p>	<p>本日の議題の1番目「下水道施設の長寿命化対策について（第一次答申）」事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>議長</p>	<p>【下水道施設の長寿命化対策について（第一次答申）】</p> <p>（別紙1）</p>
<p>委員 事務局 委員</p>	<p>ありがとうございました。各委員からご指摘のあった点を反映して事務局で答申の修正案を作成していただきました。その結果、本日ご説明のあった修正案となりました。さらに何かご指摘等ありましたらお願いいたします。</p>
<p>委員 事務局 委員</p>	<p>国に申請するのはいつ頃になるのでしょうか。</p> <p>今年度中には協議書を提出したいと考えております。</p> <p>他の都市では、すでに交付決定が出ているところが多いのですが、天理市は動きが遅いと思います。この事業を、市税の導入を今よりも増額せずに進めるとしておられますし、財源表を見ますと、多額の内部留保資金が残っており、これ以降の事業をするには企業債なしでやっぺいこうという形にされてますが、実態が厳しいのであれば、企業債を借りてでも、もっと早くやるべきではないかと思ひます。</p> <p>それと、今やるということは後々まで使えるレベルに上げるわけですから、企業債を借りて、その借金はそれを使用する世代の者に持ってもらえばいいのだから。借金もしない、市費も投入しない、ということは、健全な財政ではいいのですが、もう少し積極性を見せていくべきだと思ひます。</p>
<p>事務局</p>	<p>長寿命化支援制度は、平成20年度から始まりまして、平成21年度位までは、全国的にもほとんど計画策定を完了したとこ</p>

	<p>ろが少なかったようです。</p>
委員	<p>ただ、平成 23 年度・24 年度で、一気に各事業体がこの長寿命化計画を策定して事業の申請をしているという状況です。</p>
事務局	<p>すでに申請されたところは、交付の決定を受け準備をしているところがあるのに、遅くはないですか。</p>
委員	<p>天理市としましては平成 23 年度から計画の策定に着手しまして、現在まで来たということで、これが現状では精一杯のスケジュールであった、と考えております。</p>
事務局	<p>詳細調査をした結果、早急に措置をしなければならない 30% を次の 5 箇年でやろうとしておられます。そして次回の 5 箇年で 60% をやろうとしているわけですから倍の事業量になると思いますが、同じ 1 億で事業執行が可能なのでしょうか。</p> <p>今回の点検調査で、5 年以内に措置をしなければならない緊急度 2 以下が約 30%、それから緊急度 3 というのが 60% ということとございます。この計画で国との協議になるわけですが、天理市の案といたしましては 30% の緊急度 2 以下はもちろんのこと、60% の緊急度 3 につきましてもランク a, b を含んでいる箇所については、次に改築か修繕の判定があるのですけども、その事業の対象として含めております。</p> <p>この緊急度 3 の中でも、劣化度の一番低いランク c のみの箇所については、経過観察ということとございます。</p>
委員	<p>5 年以上延長できる緊急度 3 が最も多く 6 割を占めていたということですが、この中には当面、手をつけなくてもいいのがあるということですか。</p>
事務局	<p>手をつけなくてもいいということではなく、ランク a, b, c というのを含んでその割合で緊急度を決めていますので、その中でも一番劣化度の低いランク c しかないところについては、経過観察をするということです。</p>
委員	<p>それが緊急度 3 の中に含まれていると。</p>

事務局	そうです。
委員	<p>その事業量と金額の関係がこの文章だとわかりにくい。普通、長期計画でしたら整備しようとする事業量を決めて金額が決まる訳ですが、これは全く逆です。1億が先に決まって、それにはめて仕事をしようとしているから、非常に無理があるように思える。</p> <p>前期の5箇年は、30%をやり、次期の5箇年になったらこの60%に手を掛けていこうとしているわけですね。</p>
事務局	<p>次期の5箇年はですね、これから毎年基本構想に基づきまして、全体で382kmありますので優先順位に基づき、点検調査を実施しまして・・・。</p>
委員	<p>それは実際にやるときの話で、この計画は、最初の5箇年で3割をやり、残りは次期の5箇年でやり、それが60%だから事業量は2倍だと理解したんですがそうではないのですか。</p>
事務局	<p>単純にそういうことにはなりません。</p> <p>事業量が緊急度2であれば、一律メーターいくらということでは決まっている事業量ではなく、全て改築・修繕の比較などをして決まっておりますので。</p> <p>当然、緊急度が高いほど改築の費用がかかると思うのですが、それが単純に倍にはなりません。それと、30%を最初の5年でやって次に60%ということではなくて・・・。</p>
委員	<p>この結果に基づいて何をしようとするのですか。30%、60%という結果が出ていますよね。それを何に使うのですか。</p> <p>とりあえず5年内で手当しないとイケないのが3割ありますという事だから、3割はやるのですよね。</p> <p>それで次期5箇年では60%をやっていったらいいと。そこまで先延ばしできるという書き方をしていますよね。</p>
事務局	<p>国の基準では、このような延長ができると書いていますが、天理市の案としては緊急度3の中でもランクの高いところ</p>

委員	<p>は、5年以内に対策するというので、決めているわけです。</p> <p>確かに少し複雑ではありますが、これが国の補助を受けて事業を進めるための、国の支援制度の計画の作り方ですので。市民に読んでいただいたら10人のうち8人は、次期は倍の事業量でやるのだと理解されると思うのですが。</p> <p>どこから読み取ればいいのか。早急に手をつけなければいけないのが30%、あとの60%は5年後でもいいと書いてあるので、私が理解しているようなことにしかとれません。</p>
事務局	<p>何度も申し上げるようですけども、この5年未満とか5年以上というのは、国の一定の考え方を示したものになります。</p>
委員 事務局	<p>計画だからそれに基づいてやるんですよね。</p> <p>ただ市としては、その5年以上に延ばすのではなくて、緊急度3のうち、ランクの高いところは今回の計画のなかに反映させて、国と協議していこうということです。</p>
委員	<p>60%をそのまま5年以上延ばすという内容ではないです。</p> <p>全体の流れでは、のんびりとした構えしか伝わってこない。40年に的を絞ってますけれど、40年全体は20kmあって、そのうち詳細調査をしたのが5.5km、あとの14.5kmが手につけないことになっているが、それをどうするのですか。</p>
事務局	<p>40年以上経過した区域は天理駅周辺の区域になりますが、簡易調査を以前に実施しておりまして、その簡易調査結果から緊急性の高い路線をピックアップして詳細調査をしているので、今回対象としている以外のところを、全く手につけないということではなく、優先順位を決めて、劣化が進行しているところから、計画に反映させていくことにしております。簡易調査で一回ふるいをかけて、詳細調査という形で40年以上の20kmを整理したということでございます。</p>
委員	<p>もう一つ、5ページに緊急度2が39kmあると書かれてあるのですが、緊急度2といたら5箇年以内に対策が必要なのだ</p>

事務局	<p>と。こんなに沢山あるのに、こっちは 5.5km を詳細設計してそこからやるのだと。そこらがよくわかりません。</p> <p>この 5 ページのところは、長寿命化対策の基本構想でございまして、将来の劣化予測をしているのが図 8 と図 9 のところでございます。50 年後、図 8 では経過年数 100 年後までの劣化度をモデル化しているわけですが、あくまでもマルコフ推移確立モデルの推計上の割合、数字ということになりますので、382km を全て詳細調査すると、この推計モデルでは緊急度 2 以下が、これぐらいの延長があるのではないかと、そういう推計です。</p>
委員	<p>緊急度 2 があるということは、ものすごく深刻ですよ。5 年以内に手を打たなければいけないのが 39km ある。それを今 5, 5km 詳細調査して、その中でやろうとしている。1 億や 2 億、そこらが流れ的に資料が理解できない。</p>
事務局	<p>確かにおっしゃることもよくわかるのですけども、やはり点検調査にしましても、もちろん改築工事にしましても、短期間で一気にこれだけのストックがありますので・・・。</p>
委員	<p>理屈の問題ではないですよ。数字がでて何年以内はこれですよ、これは実は違いますよ。というのは話しにならない。もっと明確に言って下さい。これを何度も読んでみましたが、事業量のつながりがわかってこない。ここで数字がでてでも次で違う数字がでてきますし。私の考えではそういうことです。</p>
議長	<p>他にございますか。</p>
委員	<p>今お答えいただいた、緊急度 2 以下と 3 の a, b というところを明確に示していただいたら、はっきりするなという気はしました。2 以下はやるのだなと読めたのですが、a, b も含めるということですよ。そこを一行最終的に出していただいた方がわかりやすいかなと思いました。</p>
委員	<p>確認ですが、この答申の中にあります最初の 7 ページまでの、</p>

<p>事務局 委員</p>	<p>確率論とか緊急度などは、あくまでも統計学上にこういう危険度、緊急性がありますよ、ということを決めているプランであって、全線を全部の調査をして、決めたものではないんですね。解釈としましてはそれでいいでしょうか。</p> <p>そうです。</p> <p>この7ページ以降のところ、たまたまこの学術的な統計学、確率論からいった中で、これだけの緊急性がありますよ。そのところを調査をして、このA, B, Cというランク付けをして、それに対する予算づけをしている、と私は解釈したのですが、それでいいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい、そのとおりでございます、答申の3ページから「長寿命化対策基本構想(案)」と書いているわけですが、これが、統計とか確率論を用いて将来の予測をして、それに対する全体的な構想を立てているという部分でございます。</p> <p>それで8ページの「天理市下水道長寿命化計画(案)」といいますが、実際の点検調査結果に基づいて事業費を算出し、5箇年の事業計画にまとめたものでございます。</p> <p>それから、ランク a, b についてでございますが、答申の10ページ「緊急度判定による診断結果から健全度評価を行い、緊急度3に相当する健全度評価4以下の要対策施設について、対策措置を検討した。健全度4の管渠については、管一本ごとの評価においてランク a, b のあった箇所について対策を行うこととし、ランク c のみの箇所は経過観察とした。」ということでございます、基本的には緊急度3までを、全て対象としているわけですが、そのうち緊急度3の中でランク c しかなかったスパンについては、経過を観察する、としたところをここで説明させていただいております。</p>
<p>委員</p>	<p>それでしたら、確かにこれは非常にわかりにくいのと、緊急度という言葉が、学術的な確率論の中で、こういう条件では</p>

委員	<p>非常に危険度が高いですよ、ということで設定されていますので、実際の工事額というのは、調査をしてみないとわからないことですので、そのところが何かの形で明確に表現できたらと思いました。</p> <p>それと実際の工事額は、調査をしないことには出ないわけですので、その調査をする範囲が大体どれくらいになるのか、調査をするというのは、あくまでも、確率論的な中で、一番危険度が高いと思われるところを集中的に行い、それに対する予算を付けた、という表現の方がわかりやすいと思います。文書はそれでいいでしょうけれども、やろうとする方は事業量がいるわけですよ。国に県を通じて申請、協議するときには。申請する事業量は1年で何キロですか。</p>
事務局	<p>今回の5箇年で国の補助を受けて、対策をしようとしているのは3,097mになります。これを工事は4箇年で行います。</p>
委員	<p>5箇年計画では、1年目は設計をして2年目から工事をするということが書いてありますね。工事は実質4箇年だから、4箇年で3km実施するというものでいいのですか。</p>
事務局	<p>そうです4箇年で3km。ただ、最初の年に全部の設計をするのではなくて、最初の2年分をまず設計して、後は工事を行いながら残りの2箇年に相当する部分をまた設計するという計画でございます。</p>
委員	<p>5.5kmの3割といたら1.65kmですね、それがランクAで5箇年以内にやらないといけないという評価になっているんですけども、3kmしかやらないということですか。</p>
議長	<p>事務局の方にお伺いしますが、改築更新費用が年1億円程度で、それに相当する事業というのは。</p>
事務局	<p>13ページの表6でございます。黄色く着色しているところが、各年度別の事業費の合計でございます。25年度・26年度は、設計だけですので、2,800万、7,800万となっております。27</p>

議長	年度・28年度・29年度が概ね1億ということでございます。
事務局	これは金額ベースですね。延長ベースはどこですか。
議長	図21でございます。
事務局	これは更新と長寿命化併せて約3キロですか。
議長	そうです。
事務局	この3キロを当初の設計とかを含めて5箇年で、最初に指摘のあった全体の3割には相当しない。緊急度2がグラフで30%ありますよね。この30%に相当する延長と予算で手当てされる延長とは一致しない。
議長	いえ3割だけではなくて、3割と、3割というのが緊急度2以下ですので、これは全部。
事務局	あと6割の内のランクの高いa,bのところを含めて。
議長	含めて3kmです。
事務局	それが先程の金額ベースの事業量と一致するわけですね。
議長	そうです。
事務局	それをわかりやすいように表現されたらいい。
議長	考えさせていただきます。
事務局	この事業の中で金額ベースと工事ベースとが対比できるようにすれば、わかりにくさは解消される。よく読めばわかるが、分かりづらいところがあるので、もう少し工夫していただければ。あと、これでは少し遅いのではないかということについては、天理市の財政計画の中で、内部留保資金と、長寿命化計画としては1億円が妥当であって無理はできない、ということの説明すればよい。もしくは、企業債残高がこれだけあるのに、さらに起債をすればもっと増えるわけで、今後の財政運営の中で返していくわけですから、それは市の考えとしては出来ない、ということをしつかり示されたらよい。だから下水道施設の老朽化に対する積極的な対策をしたいが限界がある。他市は他市の状況があるが天理市は天理市の状況

<p>事務局</p> <p>議長</p> <p>委員</p>	<p>があるということを市民に説明すればよい。</p> <p>はい、わかりました。</p> <p>他に何かご意見ございますか、どうぞ。</p> <p>国の支援を得るとというのが前提であって、これがないと支援を受けられないのだから、この前提で計画を進めたらこうだった、ということだと思っうんですね。そこが非常に分かりづらいという感じですか。なんでこんなにややこしいことをやるの、自前でやったらこんないらぬのに、長寿命化の足枷を、国が課してきたような気がします。そこが余り記されていない気がします。支援を受ける前提で動いているのはそれでいいと思いますが、それでやらざるを得ないというのが見えぬところが一番感じます。</p>
<p>議長</p>	<p>まとめの終盤あたり「天理市の下水道事業について、当該制度を活用することが得策である。」と書かれていますか、得策であるというのは2分の1補助が付くから。例えば1億円の事業が5千万で出来るので、その分財政的な負担は軽くなる。自前でやると5千万しか出来ないが、1億円の仕事が出来ます。もっと積極的にやるというのであれば、さらに起債をするなり、資源・財源を投入して、2億円ベース3億円ベースで仕事をしていけばいいのだけでも、これは天理市にとって難しいということが説明できればよいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今言われたプロセスで普通は更新だけでよいと思っうんですけど、更新をもっと詳細にやって、長寿命化の安い手当で、最高のことが出来るようなら、それもやりなさい、それも申請の時の条件ですよ、みたいな事ですよ。そこが一番分かりづらい。何故こんな面倒なものを、という感じはしています。だから、まだ説明不足かなと思います。だから逆転の発想で、これありきで、だからこういう計画を立てましたという方がわかりやすかったかなと思います。今から可能な限り、わか</p>

議長	<p>りやすくする必要があると思います。</p> <p>他にご意見ございますか。最初に、内部留保が9億ある。これは内部留保の額として妥当なのかどうか、という質問がありました。これに関してはどうですか。</p>
事務局	<p>3億9600万というのは、この事業に関して、これだけ必要ということで、算出していますので、先に1億という事業費を決めているわけではございません。一番最初にやらなければならない事業費というのが、3億9600万必要ということです。これが10億かかるのであれば、それを賄うように手立てをしますし、それに基づく財源を考えます。</p> <p>今回は当初として3億9600万が必要ですので、この手立てとして年1億程度は確保出来ます、ということです。下水道事業資本的支出の建設改良費の内訳として長寿命化対策費が、24年度は200万、25年度以降は1億づつを計上しています。これは、この額であれば財源として十分に賄えるという事業費の裏付けをしております。</p>
委員	<p>昨年11月の審議会の議事録では「繰入金を増やすことなく、長寿命化計画は実施出来るという事をお示ししています。」と書いてある。それに物凄くこだわっている。財政から負担がなくてもいけるように、ということです。</p> <p>「一般会計の分は、今までの分は、実質は元金がありますので、それは補てんしていかなければ、ならないものです。繰入金を増やすことなく長寿命化計画は実施できます。ということをお示ししています。」と。</p>
事務局	<p>はい、そうです。</p>
委員	<p>普通に計算して、市税は必要なかったという結果になるのだったら、このような発言はしなくてもよかったですのでは。</p>
事務局	<p>下水事業につきましては、現時点では独立採算性といいながらも、市の繰入なしでは成り立たない事業ではございます。</p>

委員	<p>その中で、市からの繰入金を増やすことなく、1億の事業はやれるという資金の裏付けを述べさせていただきました。</p> <p>全国的な流れとして、今までになかったことを、やろうとしているのだから、市で負担してもらえればいいのではないか。</p>
事務局	<p>市から負担していただけるのであれば、それに越したことはないですが、現状で決まっている市の繰入以上に増やすことなくこの事業はやれます、という裏付けになっております。</p>
委員	<p>留保資金が余りながら、企業債も借りないでやろうとしていますが、危険性があるのだから。</p>
事務局	<p>仮に事業費が10億必要であって、内部に資金がない状態でしたら、それは起債を仰ぐことになりますが、この1億の事業に対しては企業債を借りることなくやれる、ということです。</p>
委員	<p>この計画であれば市費がいらぬから、1億におさえているのですか。1年に1億円以上やって、早く終わらせてしまおうというものではないのですか。</p>
事務局	<p>当然、この5年間の事業を、例えば1年2年短くしてやるとしても、事業費の総額はこの額で変わりませんので、それについては起債を仰ぐことなく・・・。</p>
委員	<p>この計画で、危険性のある管全部に対して手当出来るということですか。一部ですよ、今やろうとしているのは。</p>
事務局	<p>それは、10%の劣化程度で50年間維持するという前提で、計画を立てていますから。やり残すのではなく50年後も現状維持と同じ10%位はやむを得ないと。これをゼロにするのが望ましいのですけど。</p>
委員	<p>それで毎年、1億で可能ということですか。</p>
事務局	<p>毎年と言うよりは、当初の10年間です。</p>
委員	<p>10年で終わるわけがない。ずっと未来は続いているわけだから。</p>
事務局	<p>だから11年後はまた増えています。11年後以降は、年間3億5千万というお金が出ていますでしょう。</p>

委員	それだったら、もっと早くやったらいい。
事務局	長く時間をかけてやってきたものですから、これが未来永劫に子供達にも同じサービスを続けるための長期計画として出しているわけです。
委員	今おっしゃったように、後々の人が使えるようにするのだから、企業債を借りてどんどん先をやって、企業債償還金を、その時代に使ってもらう人に、負担してもらったらいいのでは。
事務局	今でも、一般会計と同じ規模の 260～270 億の借金を背負っているわけです。それを背負っていなければ、新たな企業債を借りて、スピードアップして、耐震化も出来るんですけど、やはり現状は借金を返済しながら、また次の未来に向かっての安定したサービスを提供していこうという、非常に苦しい中で計画をしていますので。
委員	市民の生命と、財産を守るものですからね、陥没などで沿道が潰れて、家が潰れたり工場が潰れたりするかもわからないから、ちゃんと管理しないといけないものだと思いますので。
委員	事務局から発言がありましたが、資金はない、企業債残高はある。ということは、この下水道事業というのは苦しいのです。だから、どうにか国の予算を使いながら、安心と安全の町づくりをするためにやって行こうとしているわけで、国の支援をどうやって得るかですね。だから、数字的な明確なものは中々難しい。確かに文章は少し分かりにくいですがそれも仕方ないんです。資金があれば、すぐにでも 10 年間とはいわず劣化しているところも全てやったらいいですよ。それは、なかなか経営者としては難しいと思いますし、起債をすれば反対します。値上げも反対します。どうしようもなかったら値上げも必要とは思いますが、市民はやはりそこが一番だと思います。今後将来の子供に借金を負担させないよう

委員	<p>に、今やっておりますから、そこをご理解していただきたい。その方たちが、使いながら払ってもらうんですよ。使う人に払ってもらわないと。我々も今、先代が借金して造ってくれた施設を使いながら使用料を払っているわけですから。順送りだから今、借金すれば我々の後の世代が、その借金を返してくれる。</p>
委員	<p>今までは右肩上がりの世界でしたが、これからはそうはならないですよ、少子化問題で。どこから、この税収を上げていくんですか。そういうことも鑑みながら、この事業もやっていかないといけないと、私は思うのですが。</p>
委員	<p>起債についても、給料を上げるとかの財源なら借らずに辛抱するんでしょうが、道路が陥没してしまうような危険性のある事業だから。</p>
議長	<p>積極的に起債をとおっしゃるけれど、今、企業債残高があるわけですよ。これを今現在の世代が利用して負担をしています。この残高を増やしたら、後の世代の負担が多くなるんです。それでもいいとおっしゃるんですか。</p> <p>起債をして速くやって、そして負債残高が増えますから、現在の世代の負担水準よりも、将来の世代の負担が多くなりますよ。サービスは同じです、それは不公平になりませんか。</p>
委員	<p>起債事業はそういうことですからね。消費してしまうもので借金するのではなくて、物が出来るのだから、それを使う人が負担するのは当たり前だと思いますが。</p>
議長	<p>新たに増やすのではなく更新ですから。今の水準を維持するわけですよ。同じサービス水準で利用するのに、今以上に借金をすれば負担が多くなり、世代間に不公平になる。</p>
委員	<p>それは、更新する時期が少し早まるだけで、今日造ったものを明日やりかえるのとは違うから。50年で全うしようかというのを30年や40年で悪くなってきてやるわけですからね。</p>

議長	<p>世代は 50 年 100 年と続いていきますから。 受益と負担のバランスを考えないと。</p>
委員	<p>下水道事業は、数年前から水道局と一緒に引き継いだわけですが、水道局は独立採算で歴史もあり、浄水場も自分達で賄っていたんですが、下水道事業というのは、それまで市本体がやっていた事業なんです。で、独立でやりなさいよというので、上下水道事業としてやっているわけですけども、当然、独立してやっていくだけの経済力もないわけです。下水道使用料として 12 億位収入がありますが、それではとてもやっていけないから 13 億位の市からの繰入金と、何かあったら企業債とかでやりくりしているという状況なんです。</p> <p>市も一般会計が 230 億とか 240 億位の中で 12 億～13 億は、ものすごくきついわけです。だから、市の繰入金を出しませんと言われたら、上下水道局としては、下水道使用料を値上げしてやりくりしていかないといけない。</p> <p>そういうバランスがあって、こんなのは早くやればいいじゃないかとは誰も思うんですけど、その辺が国の補助も受け、市の財政も考え、また下水道の事業も考えた中での、この長寿命化計画ということで、我々も知恵を出しながら、バランスよく、効率よく、やっていくことを今、このような形で出したものだと、私は理解しています。</p>
委員	<p>元々建設部にあった下水道課を水道局と統合したのですが、何故かという、水道局は、今は大変厳しいと思いますが、健全な経営だったんです。例えば退職金ですね、退職金はここの積立金で支払うんですよ。本庁は、そういう積立金がないので一般会計から持ってくるんですよ。そういうことがあるから、市民に負担をかけないようにしようと思えば、このような一つの案を作って、やっていかなければ仕方がないと思うんです。</p>

議長

私どもも、値上げは反対します。しかし、議長が言われたように、新設とは違いますから、極端に言えば、修繕の事業ですからね。そこは局の考えを尊重してあげていただきたい。ありがとうございます。收拾がつかなくなりましたので、整理したいと思いますが、基本的な目標は、下水道施設を長寿命化していく中で、今、必要な事業量、事業は何なのかということ、まずいろんな調査と推計でシミュレーションされて、当面30%、40年以上のものをしたらということです。で、それより年数が浅くても劣化が激しいものも対象にいれながら推計調査の結果、これぐらいは事業として必要でしょう。については、必要な事業量のなかでコストがいくらかかるのか。それが最初の5年というところですが、その費用を、安定的な健全な事業をしていくなかで年1億ということであれば、必要な事業量をカバーできる、ということなんですね。ただ1億全部持ち出しではなくて、国の制度を利用すれば、財政的な負担が軽くなる。一方で企業債残高も二百数十億あるので、これも出来れば、早く返していけば、将来の世代の負担も軽くなるし、下水道使用料の値上げもしなくて済む。そういう安全策を考えながら、必要な事業を進めようというのが今回の考え方だと思うんです。

ただ、答申の資料が中々理解できないが、何故これだけの事業量が当面必要なのか、それについては、これだけ費用もかかって、その費用を賄う上で、国の制度を利用しながら将来の安定的な経営、市民の負担にならないように考えるとこういう案が出来ました、ということなんですね。

あとは具体的に、実際に事業に着手する段階で、そのとおりの費用になるかどうかはわからないが、必要な費用があれば、なんとか内部留保もあるからそれでカバーも出来るでしょう。それから市からの基準外繰入というのはあまり望まし

	<p>くないです。天理市だけではないですけども、繰入がないと採算がとれないという自治体が多い。でも、基本的に公営企業ですから、事業収入で賄うのが原則ですから。受益者負担という考え方からも、サービスを利用していない人が払った税金で負担するのは不公平ですから。基準外の繰り入れも、十分慎重に考えていく必要があると思います。</p> <p>この答申案ということで、基本的に誤っている、ということがなければ、わかりづらいところを修正していただく。必要な事業量はこれだけであって、それに対してこういう財政を考えて事業を進めていきたい、という事がしっかり伝わるようであれば良いと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>それでは、答申案については、もう一度わかりやすいように表現していただいて、再度、それを各委員の方に送っていただいて、確認をとったうえで、これでいいということになれば確定という手順でよろしいですか。その作業の進め方は事務局と相談させていただきますので、会長に一任ということでよろしいでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>委員</p> <p>はい。</p> <p>異議なし。ということでよろしいですね。それでは、今後の上下水道事業経営のあり方について（第一次答申）に関しては、これで終了させていただきます。</p>
<p>事務局 議長</p>	<p>それでは次の議題、水源の選択について、今日は第一段階として事務局から説明をお願いします。</p> <p>説明【水源の選択について】（別紙2）</p> <p>ありがとうございました。財政シミュレーションについてはまだ、もう少し検討の余地があると思います。ただし、最後にまとめていただいたように、4つのパターンの中で選択肢として残るのは、パターン①とパターン②だが、それは詳細な分析をしないと、まだわからないということです。</p>

委員	<p>水質に関してはどうでしょうか。</p> <p>はい、基準以内ですので、その中での多い少ないは問題ないレベルです。ただ、水量確保を重きにおいた方がいいだろうと思います。今後水質の変化がない限り、という前提はありますが。</p>
議長	<p>ありがとうございます。それでは何かご意見ございましたら、よろしく願います。</p>
委員	<p>じっくり見せてもらわないとわからない。</p>
議長	<p>今日は、大まかな方向性を示していただいたということでございますので、今日、ご説明をお聞きになって、今後のために、もう少しこういう資料を出していただきたいというご要望でも結構です。先程説明がありましたように、今回のシミュレーションの結果ですけれども、パターン①、パターン②についてはどちらが有利かはまだわからない。ということでございますので、そこはもう少し詳細なシミュレーションをしたいということです。</p>
委員	<p>県の給水人口等を基にということですので、まず、ここ数年の動きを見ますと、非常にドラスチックに変わっている部分がありますから、ここが一番大きいなど。需要が大きなポイントだろうと思います。それから、先の読めない中で、20年30年先よりも、当面10年ぐらいでポイントを置いて、県や市はどうするのか、事業としてどうあるのかという中で、もう少し5年10年ぐらいまでを審議出来ればと思います。</p>
委員	<p>私も同じような意見です。50年間のシミュレーションになっていますが、余りにも遠い話で、10年ぐらいの期間で、色々なシミュレーションをやっていただきたいと思います。それと、このシミュレーションでは、県水一本ではなく、豊井と柚之内と県水をミックスしたブレンド水ということになると思うのですが、遠い世代の数字ではなく、もう一度詳細にシ</p>

	<p>ミュレーションしていただきたいと思います。</p>
議長	<p>中期くらいのシミュレーションで。長期ではなく。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりで、水需要とか人口予測とか、50年先まで、正確なことはわかりませんが、一つの施設を建てますと、50年後にやり替えなければならない施設もあります。そういった経費も勘案して、シミュレーションしております。</p>
委員	<p>今の説明では、柚之内と豊井の2箇所どちらかの①案になりそうだとのことですよね。</p>
事務局	<p>当面は①をやり、そして柚之内をいつ離していくのか、というのが焦点になります。</p>
委員	<p>基本的にはその考え方と、浄水場の古い方、豊井浄水場を建て替える時期が、30年か50年以内だったとすると、その時に残すか残さないか、多分そういう判断だと思うんですね。</p> <p>柚之内の場合も同じような考えで、年度がずれていると思うので、ちょっとそのファクターを入れると、もう少し現実味があるのではないかなと。そういうシミュレーションをやっていただくと、わかりやすいかなと思います。</p>
議長	<p>どうぞ。</p>
委員	<p>これ一つ見せていただきまして、柚之内は13%ですね。これを十何カ所の井戸からの水で製造しているが、これの維持管理がどうしても高くなるのでは。13%の柚之内をやめて、豊井と県水とでやっていけばいいのではと思います。</p>
委員	<p>もう少しわかりやすく言えば、柚之内浄水場の原水は井戸水で、豊井浄水場はダムの水が原水です。今、事務局が言われたように、この10年のスパンというのが、柚之内の現状の施設は使えるということだと思っんです。だからそれが老朽化したら建て直さないで豊井と県水とでやっていくということですね。だから、柚之内浄水場を改築するのではなく、現存の施設でやって行って、最後には廃止する、という数字だと</p>

事務局	<p>思うんですよ。柚之内浄水場は井戸水だということを明記しておかないことには、わからないと思います。</p> <p>この4パターンを大筋でシミュレーションしまして、この結果から①パターン、②パターンに絞られたということです。これについて、再度、詳細なシミュレーションを行いご比較いただく、ということでございます。</p>
委員	<p>お願いですが、パターンごとに、どの施設が必要ではないのかを表などで示していただいた方が、わかりやすいと思います。例えば、配水施設はどのパターンでも必要だし、柚之内を廃止する場合は、導管や井戸の維持費がなくなるとか。</p>
事務局	<p>施設の更新一覧表という資料を付けております。この表の右側に○と×で示しているところがあるんですが、パターンごとに、○が付いている施設は更新をする施設、×が付いている施設は更新をしない施設ということを表しております。</p>
委員	<p>もう少し簡単にまとめませんか。</p>
事務局	<p>わかりました。資料を作らせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>それと、パターンごとに人件費などが比較できるような表があればいいと思います。例えば、このパターンであれば、人件費も動力費もこれだけいらなくなります、というようなことをまとめていただければ判断しやすいと思います。</p>
事務局	<p>2つのパターンのシミュレーションを作る時には、ご指摘のことを考慮いたしまして、わかりやすくさせていただきます。</p>
議長	<p>委員からご意見があったように、我々が判断しやすいような工夫をしていただいて検討していただければと思います。</p> <p>パターン①とパターン②のどちらかになるだろう、ということに関しては、ただ二者択一ではなくて、当面はパターン①でいって、途中でパターン②に切り替えていく、という話が現実的かもしれません。</p> <p>それが、このシミュレーションでは、10年と20年のところ</p>

委員	<p>でそのラインがあり、これが 15 年になるか 13 年になるかは、もう少し詳細なシミュレーションをしないとわからない。</p> <p>それと、今まで説明していただいたように、非常に詳細な資料やデータをそろえていただけていますが、我々もまったくの専門家ではございませんので、もう少し我々が判断しやすいようなものを示していただきたいと思います。</p> <p>供給という意味で、コストは非常に大事なんですが、それと同時に、給水が止まるリスクというのを考えないといけないことでして、そのようなことも含めて、ここで検討していかなければならないのかと思います。</p>
議長	<p>今の委員のご意見ですが、危機的な時に、県内や県水、あるいは県外から給水車による給配水というのは当然、リスク管理としてあるとは思いますが、今回は、そういうことも背景にあります、どの水源がいいのかということは、また次回になると考えていただければ。今、何かご意見があれば。</p>
委員	<p>水需給の見通しについてお伺いしたいのですが、年間配水量が平成 33 年までは減り続けるが、平成 34 年度からは一定になっています。そう考えられた根拠は何かございますか。</p>
事務局	<p>実績から平成 34 年度までは減少すると予測しましたが、それ以降につきましては、今回は比較のためのシミュレーションですので、減少傾向は続くとは思いますが、何年度まで続くのかという予測も立てにくいものでございますので。</p>
委員	<p>どこかで止まらないと水道施設がいらなくなりますから。今の減少傾向を続けていくと。</p>
事務局	<p>条件設定でございますので、どのパターンでも使用量は、設定をしたら同じことになりますので。そういうことでご理解いただきたい。</p>
委員	<p>黒字が続くとどこかで値下げする、という説明がありましたが、このパターンですと値下げするのは何年度になりますか。</p>

議長	<p>本日配らせていただいた、別紙 10 の上から 3 つ目の柚之内＋県水のパターンの表の、供給単価の行を見ていただきますと、平成 25 年度が 254 円で、26 年度に 283 円に値上げし 5 年間続きまして、その後、平成 31 年度に純損益を見てプラスでしたので 277 円に値下げしています。</p> <p>一番下の県水 1 本のパターンでも、平成 30 年度が 308 円で、31 年度は 273 円に値下げしています。</p>
委員	<p>こんなになるんでしょうか。先程のような状況に。</p>
事務局	<p>これは 5 年間の期間算定です。</p>
委員	<p>それはわかりますが、こうなりますか。</p>
事務局	<p>同じ条件でお示ししなければいけないので、そういう条件で計算したら、こういう結果になりました。</p>
事務局	<p>何故こういう結果になったかと申しますと、現在までに耐用年数が過ぎた施設を、25 年度に一度に更新するという設定にしたためです。そうしますと、翌年度から、その分の減価償却費が一気に増えますので、それを賄うような料金設定をすれば、最初から値上げをしなければならないということになります。値上げして 5 年過ぎたら、それが下がれば逆に値下げするという結果になります。このような料金改定というのは、実際はありませんが、これは条件を統一してシミュレーションした結果によるものでございます。</p>
議長	<p>現実の水道料金はこのようにはならないが、この 4 つのパターンを比較するためのシミュレーションではこの様な結果になるということですね。</p>
委員	<p>それは 50 年する値打ちがあるんですか。</p>
議長	<p>それは耐用年数が 50 年あるということで考えておられる。</p>
委員	<p>これは財政面から見たシミュレーションだと思いますが、これから 30 年以内に東南海とか南海地震が起こると言われていますよね。その中で、やはりライフラインの一番大切な水を</p>

事務局	<p>確保しなければならないと思いますが、災害が起きたときの、県水と柚之内や豊井浄水場が、どれだけ安全に保たれているかというイメージがないんです。</p> <p>だから、そこを教えていただきたい。もし万が一の時は、これを使って利用できますよ、とかいうことも考えておかないと。今の時点で財政が黒字か赤字かだけで判断してはたしていいのか。天理市民の命、安全を守る意味で、そういうのを少し、教えていただければと思います。県水一本でいったらいいとか、それとは別の話。どうなんですか。</p> <p>それは安定供給の上から言えば、水源はたくさん持った方が望ましい。それも一つのご意見でございますし、財政的なシミュレーションもお示ししますので、危機管理面も合わせてご検討いただければと思います。</p>
議長 局長 委員	<p>この更新計画の中には、耐震化も含まれていますか。</p> <p>はい。含めています。</p> <p>全然違う話ですが、最後のページに水源パターン別配水区域図というのがありますね。今現状で5つの区域に分かれています。美味しい水という観点で参考になるとは思いますが、水に対する美味しさとかのアンケートを取られたことがありますか。</p>
事務局 委員	<p>総合計画の評価として調査しています。市が提供しているサービスの中では、水道と下水道につきましては、市民の方からは一番高い満足度を得ていますが、水源ごとにとということになれば、町ごとに、また集計をし直す必要があります。</p> <p>集計をし直さなければならないということですね。もし、見えてきたら、当然、柚之内の地下水の方が美味しいのかもしれないのですが、それをわかりつつ判断したらいいかなと思ひまして。</p>
事務局	<p>豊井浄水以外は、ブレンドになっている区域もあります。</p>

委員	<p>極端に県水だけのところもありますから、その辺のデータがあればと思います。</p>
議長	<p>そうしましたら他になにか。</p> <p>ないようでしたら、本日の議題に関して、議案1の長寿命化計画に関しては基本的に内容としてはこれでよろしいので、わかりやすいように表現していただけたらと思います。ただ、これは25年度からの事業、ということは今年度中に、決めておかないといけないので、出来るだけ早い時期に答申を確定したいと思います。その作業は大変だと思いますが、早く各委員に確認いただけるようお願いします。</p> <p>それから議案の2に関しましては、今日色々と要望が出ましたので、修正等をしていただいて、次回までをお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>もう1点。先程の委員ご質問の回答ですが、例えばパターン④の県水一本の場合、25年度から料金改定をしなければならぬといいますが、県水一本にすると浄水場で製造している分の500万トン近くを余計に買わなければならない事になります。そうしますと、単純に500万トンの130円で6億以上の費用が一度に増えるということになり、他のパターンで減価償却分を含めても、それより県水から買うお金が多いことによって、料金の値上げが必要になるということです。</p>
委員	<p>これは、天理市上下水道事業経営審議会ですね。経営というのは商売ですよ。水を売っているわけですから回収しないといけませんよね。いくら売っても回収できなければとんでもない。商売というのは、売ったら回収するという事をしっかり理念を持ってやって下さい。それだけです。</p>
議長 委員	<p>まだ何かございますか。</p> <p>県水への移行についてですが、天理市独自の意思表示だけでいいのですか、県からセールスに来て、少しでもたくさん使</p>

事務局	<p>わなければならぬという方向で進んでいるのですか。</p> <p>県は、たくさん使っていただきたいということで、各市町村に、シミュレーションを依頼しています。その結果、有利であれば県水へ切り替えていただきたいということでございます。私どもとしては、シミュレーションしまして、いろんな条件はありますが、有利であれば県水一本ということもありえます。それを検討するために、今、選択ということでシミュレーションをしている、ということでございます。</p>
委員	<p>県民だよりには、積極的にやるような感じで。</p> <p>「今回の料金改定により、町村から県に支払う県営水道料金を軽減し、自己水源から県営水道への転換を進めます。」PRですからこういう事を書いています、天理市独自でしめすと言ったらプレッシャーがかかりませんか。</p>
事務局	<p>費用的に安ければ考えますが、まだ自己水を作った方が安いので、独自でしているということです。</p>
議長	<p>買う、買わないは選択ですから。強制されるものではないです。よろしいですか。なければこれで審議を終わらせていただきます。事務局お願いします。</p>
事務局	<p>【事務連絡】</p> <p>最後に、次回の会議の公開についてですが、次回の会議も、水源の選択についてが主な議題ですので、公開してもさしつかえない内容と思いますので、公開とさせていただいてよろしいでしょうか。委員の皆さんのご意見を賜りたいと思います。議長よろしくお願ひいたします。</p>
議長 司会	<p>異議なしということですので、公開でお願いします。</p> <p>【閉会】</p>